

農業法人経営者等を対象とした研修会・講習会事例 報告書
(令和2年度 えだまめの生産振興検討会における農作業安全講習会)

1 日時・場所

令和2年11月27日(金) 14:30～16:00

J Aいみず野本店3階(富山県射水市北野1555-1)

2 対象者

J Aいみず野えだまめ部会(22法人経営体) 16法人23名

3 参加機関・組織 ※カッコ内は人数

J Aいみず野(9)、全農とやま(1)、農林水産省北陸農政局(2)

富山県高岡農林振興センター(7)、富山県農業技術課(4)

農研機構 農業技術革新工学研究センター(1)

(一社)全国農業改良普及支援協会(2) 延べ26名

4 概要

J Aいみず野えだまめ部会主催による「令和2年度えだまめの生産振興検討会」において、(一社)全国農業改良普及支援協会共催による農作業安全講習会を開催した。

なお、同部会は、県内で唯一、J G A P団体認証を取得しており、部会長をはじめ、労働安全に対して積極的に取り組むとともに、J Aいみず野が力強く営農をサポートしている。

県農業技術課と連携し、講師には、農研機構 農業技術革新工学研究センターの研究員を招き、同日午前中に現地指導(ヒアリング)を行うことで、現場の実情に応じた実践的な現場改善のアドバイスとなる講演を行った。

講師：農研機構 農業技術革新工学研究センター

安全工学研究領域 安全技術ユニット長 積 栄 博士(農学)



写真1 研修会の様子

5 内容

1) 現地指導 ～機械の更新による改善事例～

講演に先立ち、JAいみず野のえだまめ出荷場（射水市）を訪問し、JAいみず野営農部担当者から農作業安全の取り組みについて話を伺った。

今年7月、ウッドチッパー（裁断機）を用いたエダマメ脱莢後の枝の裁断処理中に、濡れた枝が詰まり、負傷事故が発生。そこで、JAでは再発防止に向け、注意を促す「看板」（写真3）を設置するとともに、作業現場からの要望を受けて、①処理量が大きく詰まりにくい、②刃に手が届きにくいなど（写真4、5）、より安全に配慮したウッドチッパーに更新した。「事故による経営へのリスクに比べたら、機械の更新費用は安いもの」とJA担当者。

積ユニット長は、「再発防止に向けて『さらに注意を促す』のではなく、機械の更新によって『うっかりしても事故に繋がらない作業環境』を目指しており、的を射た改善策が講じられている。負傷事故にとどまらず、死亡事故が発生すると経営に甚大な影響を及ぼすため、実はコストパフォーマンスが高い。このような考え方が面的に広がってほしい」と評価された。

一方で、「従来の機械に比べて処理量が大きくなっているが、それでも過剰な投入や濡れた枝は、やはり詰まりの原因になる。また、作業する立ち位置も決められているので、留意していただきたい。改善に終わりはなく、継続した取り組みが重要」とアドバイスされ、今後の展開に期待を寄せられた。



写真2 JA担当者から話を伺う
積ユニット長（右）



写真3 安全を促す「看板」



写真4 刃へ手が届かないよう、
安全ガード（トラ柄）が
設置された投入口



写真5 ブロワに手が届かないよう、
大きめの安全ガード（トラ柄）
が設置された排出口

2) 講習会 テーマ「農作業事故の実態と「効果のある」現場改善～GAPの視点～」

積ユニット長は、冒頭、さまざま要因と比較した農作業事故による死亡率の高さを紹介するとともに、農作業事故に伴う経営へのリスクの大きさを強調し、安全対策の重要性を印象付けた。

続いて、GAPと連携した持続可能な農業経営への取り組みを紹介するとともに、人はミスをするを前提とし、注意を促すだけでなく、作業環境（圃場、移動経路など）における現場改善（作業方法の改善など）へのアプローチが必要であると述べられた。

このほか、トラクタやコンバイン、刈払機をはじめ、ウッドチップパーなど具体的な事故事例を交えながら、作業環境に潜むリスクへの気づき、現場改善のポイントを紹介された。

最後に、『気を付けよう』だけでは事故は減らない。現場の改善が重要であり、できることから取り組んでいただきたい。例えば“整理整頓”。しっかりした判断を行う上では、基本的なことが大切」と強調された。

質疑応答では、「トラクタの乗り降りです足を滑らせヒヤリとした」との会場の声に対して、「“階段降りできる仕組みになっていない”という情報を知っていることも大事。また、不備を見つけたら、メーカーに声を届けてほしい」とアドバイスされた。

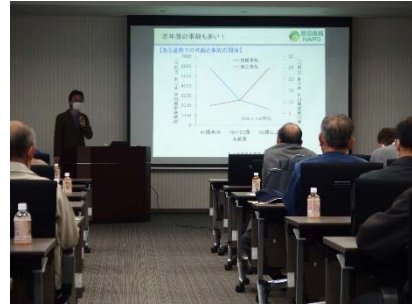


写真6 熱心に話に耳を傾ける参加者の皆さん



写真7 豊富な事例を交えて改善のポイントを紹介する積ユニット長

以上